RubyWorld Conference 開催実行委員会

RubyWorld Conference 2018 基本計画書

今年で１０回目となる「RubyWorld Conference」を通じて、新しい普及の段階に突入しつつあるRubyが、多様な現実世界にどのように適合し、浸透していくのか、そのような普及過程と成長を考える機会となることを期待すると共に、これまで同様に先進的な利用事例や最新の技術動向、開発者教育の状況などの情報を発信することで、「Rubyのエコシステム(生態系)」を知ることができる場として以下のとおり開催いたします。

この実行委員会では、今年の開催において講演内容の一層の充実を図ることで参加者の満足度を向上させ、また、今後も持続可能な運営（開催規模、予算）を検討し、開催いたします。

１　開催の目的

■Ruby市場、ビジネス利用の拡大

先進的な利用事例や最新の技術動向などの情報発信を通じて、Ruby市場、ビジネス利用の拡大を図る。

２　「RubyWorld Conference 2018」の開催

①日時：2018年１１月１日（木）、２日（金）

②場所：島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」　３階 国際会議場

③主催：RubyWorld Conference 開催実行委員会

（構成団体）(一財)Rubyアソシエーション、島根県、松江市、国立大学法人島根大学、
(独)国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校、
(独)日本貿易振興機構 松江貿易情報センター(ジェトロ松江)、
(公財)しまね産業振興財団、(一社)島根県情報産業協会、しまねOSS協議会、
経済産業省 中国経済産業局

④開催テーマ：Rubyの「エコシステム」　～ Rubyの持続可能な生態系 ～

〇最新技術動向の紹介
〇開発事例の紹介
〇ユーザ視点での導入事例の紹介
〇公的機関による Ruby 支援の取り組み
〇教育・研究の紹介
〇そして、エコシステム全体の基盤となる
　様々なコミュニティの活動の紹介

⑤基調講演者：まつもとゆきひろ（(一財)Rubyアソシエーション）
Chad Fowler 氏

⑥その他講演者：プログラム検討委員会において講演者を選定

※一部の講演枠は、昨年に引き続き一般公募の予定

⑦来場者数見込み：両日とも 400 名

⑧入場料：5,000 円／1 名

※但し、一部の機関･関係者は無料の予定